

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171400197		
法人名	株式会社 三栄		
事業所名	グループホーム すぎの子		
所在地	〒849-3123 佐賀県唐津市厳木岩屋1373番地1 (電話) 0955-63-4021		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	〒849-8790 佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 19年11月26日	評価確定日	平成 19年12月28日

【情報提供票より】(平成 19年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8人, 非常勤 10人, 常勤換算 9.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建て	0	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(11月26日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.2 歳	最低	67 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 平川病院 / 医療法人 至誠堂 宇都宮病院 / 井本歯科
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に開かれたグループホームを目指し、地域との交流の深い、環境と地域に溶け込んだ生活をされていた。地域に積極的に出て行き、近くの公民館での行事に参加し、老人クラブだけではなく、保育園行事や町内の行事に参加され、また、ホームに積極的に地域の方を招かれるなど、認知症ケアの理解と協力を得られるように努められていた。「のんびり・ゆっくり・自分らしい生活」また、画一的なケアサービスではなく、個人個人の特性を見極め細かい個別の対応をされていた。地域の方が気軽に尋ねてこれらお茶を飲んで共に過ごす、職員の笑顔や挨拶が印象的なホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の課題である「入居者の生活を優先できるような体制作りが望まれる」ということに対しては、忙しい時間帯に職員を増員したり、業務自体の改善等に具体的に取組まれていた。現場の職員からは、もっと入居者の方とゆっくりに接する時間を持ちたいという気持ちが感じられ、更なるサービスの向上が期待出来る。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、「項目を全部埋めることだけが目的ではなく、グループホームがどうあるべきか確認の意味も込めて、職員自身が考えることの大切さを大事にするように」との評価への取り組みへの思いがあり、職員全員に自己評価を配布した。そして、職員各々が記入したものを、ホーム長・管理者が総合されて、ホームの自己評価としてまとめ、自己評価に対するホームの意識統一を図るようにした。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1度開催されており、参加者は固定のメンバーではない為、内容の広がりにつながっている。メンバーからは地域行事への参加の呼びかけや要望等があり、ホームのサービス向上にもつながっている。ホームの行事報告等に対する意見や提案、また、お知らせ、地域の行事への参加の誘いなどもあり、運営会議を有効に活用し、事業所の運営に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>各家族に対しては、毎月のホーム便りだけではなく、一人ひとりの状況報告と個人の写真、また金銭出納簿、行事等への参加呼びかけなどしている。面会の際にはホームに対する意見等が寄せられた時は、すぐに対応している。また、玄関口には苦情受付箱が設置されており、家族からの苦情に関してもすぐに対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的に買い物や散歩には出かけており、近所での挨拶などよくされている。また回覧板や市報なども届けられ、地域の役割当番は、ホームを一軒の家と考えて役割を担っている。近所の行事にも積極的に参加したり、ホームの行事に地域の方の参加を呼びかけるなどして、交流を深めるよう努めており、日常的に地域住民が気軽に訪れている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	近所の方が声をかけてくれるような開放的なホームをやりたい、入居者の方の笑顔を大切にしたいとの考えで、「その人らしく笑顔ある生活づくり」の理念をもとに、具体的な指針をつくられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と具体的な指針を心構えとして、それを職員全員で話し合い、その文章をホーム内に貼り出している。毎日朝礼で唱和し、業務中でも見ることができ、日ごろの介護に活かすようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の希望があれば敬老会や、高齢者生きがい教室へ参加している。また、ホームを一軒の家と考え、地域の役割当番を担っておられ、地区の掃除の当番等は、可能な限り参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが評価の意義を理解できるように努め、自己評価は全職員で行い、課題については、改善に向けてカンファレンス等で話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催されており、参加者は固定のメンバーではない為、内容の広がりにつながっている。メンバーからは地域行事への参加の呼びかけや要望等があり、ホームのサービス向上につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課に行くときにはホームの便り等を持って行き、ホームの情報提供に努めている。町の福祉課へは頻回に行くため顔見知りとなり、入居の紹介や相談も町からが多くなり、良好な関係が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、家族全員にホーム便りとともに、個別の写真と生活状況報告書、金銭管理報告書を送付しており、写真などは希望があれば遠方にいる家族にも送付している。また、行事の際は家族への参加の呼びかけをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に苦情受付箱が設置されており、家族からの苦情に関してはすぐに対応されている。しかし、記録が残されていない。	○	苦情への対応で終わるのではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上を目指す為には記録を残すことが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着に向けて、業務負担の多い時間帯に増員するなど業務改善を行い、職員の負担軽減にも努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員に情報を提供し研修への参加の呼びかけを行なっている。参加希望者には勤務の配慮をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと交流を行い、職員個人でも他ホームとの交流を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族等と相談しながら、見学だけでは不安な方にはホームに馴染まれるよう、食事や入居者の方と時間を共に過ごしたり、宿泊体験もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事やレクリエーションを通して、喜怒哀楽を職員と共にし、利用者に役割をもってもらったりして、利用者から教えてもらえるような関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の出された要望等については職員同士が情報を共有し、自己決定を尊重するように努めている。思いや意向を十分表現できない方への対応は、表情や行動をよく観察しながら対応に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まず本人にどう生活したいのか尋ね、家族や関係者の意見を取り入れてカンファレンス等で検討し、それに沿った計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の要望を聞き、週に1度、個別に計画の見直しの必要性を検討し、見直しの場合は家族にも連絡している。変化が生じた時は随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望される病院や美容院、リハビリ、そのほか本人の行きたいところには近距離であれば職員が同行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に職員同行で受診している。遠方の病院については家族の同行で受診をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の指針を家族に対して説明しているが、終末期の対応に関してはまだ取り組みはなされていない。	○	終末期のあり方については家族、主治医、ホームを交えて話し合い、対応の指針を定めることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報にかかる書類は事務所の中に保管し管理している。また、勉強会などを通して、入居者への声掛けや対応の仕方など研修している。しかし、馴れ合い過ぎる声かけが見られる。	○	入居者への言葉使い等については、親しみすぎるとプライバシーへの配慮を欠くことがあるため、親しみと礼儀の使い分けや声のトーンなどの細かい配慮が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に見合うよう努力をされているが、日常業務に追われ、それが入居者と職員のストレスとなっており、入居者の希望にそった支援が出来てない状況である。	○	業務の合理化を検討されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に合わせた、調理・食事・片付けの支援がなされている。今後は外食を楽しむことにも積極的に取り組みたいと意欲を持たれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴されたい方にも対応できるように工夫されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物や地域での交流の会には毎回参加されており、入居者の楽しみや気晴らしとなっている。また、外出の活動が困難な入居者に対しては、ホーム内でのリビングでの趣味活動や室内での散歩等を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物は毎日の日課としている。また、外出に拒否的な入居者に対しては、働きかけをすることによって外出を促している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	裏口は施錠をされているが、居室には鍵はなく、正面玄関も日中は施錠はされていない。例外的に施錠の必要の際は家族に説明をなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に3～4回の避難訓練が行なわれ、救命救急法の訓練も実施している。また、日頃の地域との交流により協力が得られる状況である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は減塩・減油・減調味料で野菜の持ち味を生かしたメニューを基本としている。状況に応じて形態を変えたり、補食も取り入れている。また、本人の好む水分の摂取を勧め、水分確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	草花や置物があり、すだれに季節の飾りをしている。また、入居者が動きやすいように配慮され、椅子やテーブルの配置も工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は火気・刃物以外の持ち込みは自由で、テレビやダンス等好みの物を持ち込むことが出来、その人らしい部屋となっている。		